

鈴木農園で新しい農業技術の研修会

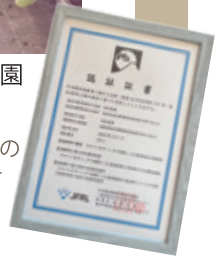
水耕で有機質肥料を用いる技術のJAS認証

全国初!



鈴木さんと妻の美智子さん。右は鈴木農園に交付された「特色JAS」の認証証書。

特色JAS：付加価値の高い特色あるつくり方の規格を満たす食品・農林水産品が認証を受け「特色JASマーク」の表示が認められます。



鈴木秀範さん（上飯樋）が夫婦で営む『鈴木農園』は「農研機構」が開発した「有機質肥料活用型養液栽培（プロバイオポニックス栽培）」でミニトマトを栽培していて、今年6月に日本農林規格の「特色JAS」の認証を受けました。

村で農業を再開するにあたり「水耕栽培でなおかつ味にこだわりのおいしいトマトをつくりたい」と考えた鈴木さん。検討を重ねてたどり着いたのがこの技術の情報でした。

水耕栽培（養液栽培）では有

機肥料が使えないという常識を覆す新しい技術。鈴木さんは、開発者である農研機構の篠原信さんに連絡を取り、篠原さんが会長を務める「有機質肥料活用型養液栽培研究会」に加入。村の事業を活用して設備を整えました。

そして「特色JAS」の認証を取得した今年、11月に研究会の総会と研修が福島市で開催され、全国各地から集まった参加者が鈴木農園を視察。鈴木さんの研究と実践に、注目が集まりました。



作業スペース（上の写真）や育苗ハウスも公開。参加者の質問に答えながら栽培の手法を解説する鈴木さん。



ミニトマトのハウスにて。篠原会長（右端）も「目からウロコの発見がある」と鈴木さんの実践をくまなく視察。

震災前の村の写真を皆さんから募集します

「広報いいたて」では、震災前の暮らしやなりわい、集落や街並みの写真を募集します。原発事故に伴う突然の避難が長期化したことにより変化を余儀なくされた光景を、皆様のご協力をいただきながら、さまざまな写真で振り返ることができればと考えています。お手持ちの写真を2月2日までにお送りください。応募先など詳しくはP26をご覧ください。

〈編集後記〉

涼しげな季節があったというまに過ぎ去ってしまった11月。今年もふくしま駅伝には、故郷を想う心が集まるとともに、故郷の壁を越えて声援を送る姿がたくさんありました。歴史ある飯館村を背負って全力で挑んだ選手の皆様、本当にお疲れ様でした。そして、今年も感動をありがとうございました。（菅野）

1年を振り返って思いますが、飯館村をフィールドに、あるいは心の拠り所として、たくさんの方が想いを語り行動を起こしていただく。帰村した人も移住した人も、避難先で暮らす人も、互いの気持ちに寄り添いながら共に未来をつくらうとして、いること。そして、広報紙に掲載しきれないもつとたくさんの方の動きや試みも…。多様な歩みの力強さを確かに感じた1年でした。（星）